

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	①多様な職務についての基礎知識を習得する ②多様なサービスについての基礎知識を習得する。 ③職務間の連携の意義を知ることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3時間	3時間	0	講義内容 ・介護保険における在宅や施設サービスの基礎知識を学ぶ ・介護保険サービスの利用方法の基本を学ぶ ・介護保険サービス外の高齢者福祉サービスを学ぶ
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	3時間	0	講義内容 ・介護員初任者研修終了者の職域と具体的なフィールドを知る。 ・在宅サービスにおける介護職の役割と仕事内容を学ぶ ・施設サービスにおける介護職の役割と仕事内容を学ぶ ・ケアプランの存在意義とチームアプローチや他職種連携、社会資源について学ぶ。
(合計時間数)	6時間	6時間	0	

使用する機器・備品等	<p>テキスト(中央法規出版発行)、配付資料等</p> <p>【添付のDVDについて】</p> <p>○第1巻の巻末に添付されているDVDは、第1巻第1章「職務の理解」の科目内容に相当する視聴覚教材である。研修に先立ち、介護職がどのような場で、どのような利用者に対して、どのようなサービスを提供するのか、具体的なイメージをもつことができるように、実践的な取り組みを紹介する内容になっている。</p> <p>○具体的には、①訪問介護、②通所介護、③認知症対応型共同生活介護、④小規模多機能型居宅介護、⑤介護老人福祉施設、⑥介護老人保健施設、⑦ケアハウス、⑧障害福祉サービスを取り上げている。</p>
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	①利用者に対する自立支援の意義と基本を理解する。 ② I C F, エンパワメントなど自立支援に必要な視点を学習する。 ③自立について幅広く理解することができる。 ④人権について考え、その基本を学習する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 人権と尊厳を支える介護	4 時間	1 時間	3 時間	講義内容 ・ 個人の人間と尊厳について学ぶ ・ アドボカシーやエンパワメントの視点を学ぶ ・ 利用者のプライバシーの重要性を理解する。 ・ I C F の基本を理解する。 ・ 人間にとっての Q O L の意味を知る ・ 虐待防止や身体拘束防止の意義と基本を知る ・ 個人を守る権利と制度を学習する。 通信学習課題の概要 ・ 人権と尊厳の保持 ・ I C F ・ Q O L ・ ノーマライゼーション ・ 虐待防止・身体拘束禁止
② 自立に向けた介護	3 時間	1 時間	2 時間	講義内容 ・ 自立と自律について考え学ぶ。 ・ 様々な自立について学ぶ。 ・ 残存機能・所持機能の維持活用の意義を理解する。 ・ 利用者のモチベーションの重要性を知る ・ 介護予防の重要性と意義について理解する。 通信学習課題の概要 ・ 自立支援 ・ 介護予防
③ 人権啓発に係る基礎知識	2 時間	2 時間	0	講義内容 ・ 日本国憲法から人権を考える ・ 福祉サービス利用者と人権を考える。 ・ 人権を擁護するために必要な取り組みについて知る ・ 身近な事例から人権を考える。
(合計時間数)	9 時間	4 時間	5 時間	

使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、DVD、配付資料等
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	①介護職の専門性を知り、その必要性を感じ取る ②職業倫理の重要性を知り、それを遵守する意義を理解できる。 ③リスクマネジメントの基本を学ぶことができる。 ④介護職の安全について考え、セルフマネジメントの重要性を知る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	1 時間	1 時間	0	講義内容 ・在宅と施設の違いについて学ぶ ・地域包括ケアについて学ぶ ・エビデンスに基づく自立に向けた介護の必要性を学ぶ ・関連する専門職の役割とその連携のあり方を学ぶ。
②介護職の職業倫理	1 時間	1 時間	0	講義内容 ・介護職における職業倫理の重要性を学ぶ ・介護職における様々な職業倫理を学ぶ ・介護職と社会的責任、社会的意義について学ぶ ・個人情報保護について学ぶ
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2 時間	0.5 時間	1.5 時間	講義内容 ・介護現場における安全の意義を学ぶ ・リスクマネジメントの基本を知り、ハインリッヒの法則を学ぶ。 ・感染症対策、事故対策の基本を知る 通信学習課題の概要 ・介護における安全の確保 ・事故予防、安全対策 ・感染対策
③ 介護職の安全	2 時間	0.5 時間	1.5 時間	講義内容 ・介護職の健康管理の重要性について学ぶ ・腰痛予防を学ぶ ・感染症の基礎知識を学ぶ ・ストレスとそのマネジメントを考える 通信学習課題の概要 ・介護職の心身の健康管理 ・感染予防
(合計時間数)	6 時間	3 時間	3 時間	

使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、DVD,配付資料等
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	①介護保険制度の基本を理解する ②ケアマネジメントの意義や基本について理解する ③医療との連携とリハビリテーションについて理解する。 ④障がい者総合支援制度について理解する。 ⑤その他の制度を知る。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	3 時間	0.5 時間	2.5 時間	講義内容 ・介護保険制度導入の背景や目的について学習する ・ケアマネジメント、介護予防、地域法勝支援センターについて学習する。 ・介護保険制度の仕組み、サービス、要介護認定について学習する。 ・財源や、行政の役割、各種団体の役割について学習する。 通信学習課題の概要 ・介護保険制度創設の背景および目的、動向 ・介護保険制度のしくみの基礎的理解 ・制度を支える財源、組織・団体の機能と役割
②医療との連携とリハビリテーション	3 時間	0.5 時間	2.5 時間	講義内容 ・医療行為について学習する。 ・訪問看護及びリハビリテーションについて学習する。 ・看護と介護の役割と連携について学習する。 通信学習課題の概要 ・医行為と介護 ・訪問看護 ・施設における看護と介護の役割・連携 ・リハビリテーション
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3 時間	0.5 時間	2.5 時間	講義内容 ・障がい福祉制度の理念、障がいの概念、ICF の考え方について学ぶ。 ・障がい総合支援制度の仕組みを学習する。 ・個人情報保護法や成年後見制度、日常生活自立支援事業などを学習する。 通信学習課題の概要 ・障害者福祉制度の概念 ・障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解 ・個人の人権を守る制度の概要
(合計時間数)	9 時間	1.5 時間	7.5 時間	

使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、DVD、配付資料等
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
 ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
 ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	①介護におけるコミュニケーションの基本と様々な留意点を理解する。 ②介護記録の基本を理解する。 ③チームケアにおけるコミュニケーションの意義、重要性を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	講義内容 ・介護におけるコミュニケーションの意義や目的を学習する。 ・コミュニケーション技法、コミュニケーションツールを学習する。 ・利用者や家族とのコミュニケーションの実際を学習する。 ・利用者の状況に応じたコミュニケーションを学習する。 演習内容 上記講義内容に自己覚知、自己理解演習など様々な演習を交えて学習することとする。 通信学習課題の概要 ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際
②介護におけるチームのコミュニケーション	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	講義内容 ・記録による情報共有について学習する。 ・様々な記録の種類や記録方法を学習する。 ・報告、連絡、相談について学習する。 ・コミュニケーションを促す環境について学習する。 通信学習課題の概要 ・記録における情報の共有化 ・報告・連絡・相談 ・コミュニケーションを促す環境
(合計時間数)	6 時間	3 時間	3 時間	

使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、DVD、配付資料等
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	①加齢や老化に伴う生理的变化、心身の変化や特徴などを理解する。 ②高齢者に多い疾病の種類とその症状などの基本を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3時間	2時間	1時間	講義内容 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について学ぶ。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。 通信学習課題の概要 ・老化と老年期 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
② 高齢者と健康	3時間	1時間	2時間	講義内容 ・高齢者の疾病と生活上の留意点を学ぶ。 ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点を学ぶ。 通信学習課題の概要 ・高齢者の症状・疾患の特徴 ・高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点
(合計時間数)	6時間	3時間	3時間	
使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、DVD、配付資料等。			

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	①認知症ケアの基本的考え方を理解する。 ②認知症の中核症状と周辺症状を理解する。 ③様々な認知症の種類とその特徴を知り、生活環境の意義やあり方を理解する。 ④認知症利用者とのコミュニケーションの基本を理解する。 ⑤家族への支援の基本を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	講義内容 ・パーソンセンタードケアなど認知症ケアの理念について学習する。 ・認知症ケアの視点について学習する。 通信学習課題の概要 ・認知症のケアの理念 ・認知症ケアの視点
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 時間	1 時間	1 時間	講義内容 ・認知症の概念や定義、もの忘れとの違い等について学習する。 ・認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイントや健康管理を学ぶ。 ・認知症の治療や薬物療法、薬について学ぶ。 通信学習課題の概要 ・認知症の概念 ・認知症の原因疾患とその病態 ・原因疾患別ケアのポイント ・健康管理
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2 時間	1 時間	1 時間	講義内容 ・中核症状や周辺症状など、認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴をについて学習する。 ・認知症利用者への対応について学習する 通信学習課題の概要 ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の人への対応
④家族への支援	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	講義内容 ・認知症の受容過程での援助を学習する。 ・レスパイトケアの意義と重要性を学習する。 通信学習課題の概要 ・家族へのレスパイトケア ・家族へのエンパワメント
(合計時間数)	6 時間	3 時間	3 時間	

使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、配付資料、DVD 教材等
------------	------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	①障がいの概念と ICF について理解する。 ②障がいの特性に応じた社会的支援の考え方について理解する。 ③障がいの受容プロセスと基本的な介護の考え方について理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 障がいの基礎的理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	講義内容 ・ ICF の分類と医学的分類を学習する。 ・ ICF の考え方を学習する。 ・ ノーマライゼーションの概念を学習する。 通信学習課題の概要 ・ 障害の概念と I C F ・ 障害者福祉の基本理念
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	講義内容 ・ 視覚障がい、聴覚障がいなど様々な身体障がいについて学習する。 ・ 知的障がいについて学習する。 ・ 精神障がいについて学習する。 通信学習課題の概要 ・ 身体障害 ・ 知的障害 ・ 精神障害 ・ 発達障害 ・ 難病
③家族の心理、かかわりの支援の理解	1 時間	0.5 時間	0.5 時間	講義内容 ・ 家族への支援、レストパイトケアについて学習する。 通信学習課題の概要 ・ 家族の理解と障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減
(合計時間数)	3 時間	1.5 時間	1.5 時間	

使用する機器・備品等	テキスト (中央法規出版発行)、DVD、配付資料等
------------	---------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	①介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を理解する。 ②高齢者の生活の様子を具体的にイメージでき、在宅や施設の高齢者の生活を理解する。 ③基本的な介護技術の原則を学び、介護予防の考え方を理解する。 ④利用者の身体状況に応じた介護や環境整備について理解する。 ⑤体位変換、移動、移乗、排泄、食事、入浴、や清潔、睡眠の意味を理解しそれを取り巻く福祉機器やからだのしくみを理解する。 ⑥ターミナルケアの考え方、対応の仕方や留意点、家族への支援などを理解する。 ⑦整容の意義を理解する。 ⑧家事援助の機能と基本的な考え方を理解する。 ⑨人の記憶の構造や意欲、人体の構造が理解でき、支援と結びつけることができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	7 時間	2 時間	5 時間	講義内容 ・ICF 視点や我流介護の排除など倫理に基づく介護を学習する。 ・エビデンス、すなわち根拠に基づく介護を学習する。 通信学習課題の概要 ・理論に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3 時間	2 時間	1 時間	講義内容 ・学習と記憶、感情と意欲の基礎知識を学習する。 ・自己概念と生きがい、適応行動とその阻害要因を学習する。 ・こころの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がこころに与える影響を学習する。 通信学習課題の概要 ・学習と記憶に関する基礎知識 ・感情と意欲に関する基礎知識 ・自己概念と生きがい ・老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3 時間	2 時間	1 時間	講義内容 ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識を学習する。 ・骨、関節、筋の基礎知識、ボディメカニクスを学習する。 ・中枢神経系と体性神経、自律神経、内部器官に関する基礎知識を学習する。 ・こころとからだを一体的にとらえる視点や利用者の様子の普段との違いに気づく視点を学習する。 通信学習課題の概要 ・生命の維持・恒常のしくみ ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用 ・中枢神経と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識
④生活と家事	4 時間	2 時間	2 時間	以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。 ・生活歴や自立支援を学習する。 ・予防的な対応及び主体性、能動性を引き出す視点を学習する。 ・多様な生活習慣や価値観について演習を交えて学習する。 通信学習課題の概要 ・生活と家事の理解 ・家事援助に関する基礎知識と生活支援
⑤快適な居住環境整備と介護	4 時間	1 時間	3 時間	以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。 ・家庭内に多い事故について学習する。 ・バリアフリーと住宅改修などを事例を活用して学習する。 ・福祉用具貸与サービスや福祉用具について学習する。

				<p>通信学習課題の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具の活用
⑥整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	4時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体状況に合わせた衣服の選択や着脱を学ぶ。 ・身支度、整容行動や洗面の意義と効果について学ぶ。 <p>実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。</p>
⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	7時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と介護者双方が安楽で安全な介助方法を学ぶ。 ・利用者の自然な動きや力の活用方法を学ぶ。 ・重臣や重力の働き、ボディメカニクスの基本原理を学ぶ。 ・移乗介助の具体的方法を、車いすからベッド、ベッドから車いすなど、様々な条件設定を行い学ぶ。 ・つえ等を活用した移動の介助方法を学ぶ。 ・褥瘡予防を学ぶ <p>実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。</p>
⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	7時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事をする意味や、食事介助に対する介護者の意識について学ぶ。 ・低栄養や脱水による弊害を学ぶ。 ・食事のメカニズム、姿勢や咀嚼、嚥下などを学ぶ。 ・空腹感と満腹感、好みや食事環境について学ぶ。 ・様々な食事形態と食事に関する自助具について学ぶ。 ・口腔ケアの意義と誤嚥性肺炎について学ぶ。 <p>上記をもとに、事例検討や介助方法を相対的に学習する。</p> <p>実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。</p>
⑨入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	7時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羞恥心や遠慮への配慮を学ぶ。 ・体調確認の方法を学ぶ。 ・全身清拭、目や鼻腔、耳、爪の清潔方法について学ぶ。 ・陰部洗浄について学ぶ。 ・足浴や手浴、洗髪について学ぶ。 <p>上記などをもとに、一般浴槽や特殊浴槽などを活用した身体状況に応じた介助方法を学ぶ。</p> <p>実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。</p>
⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間	7時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識と排泄の身体面での意味、心理面での意味、社会的意味を学ぶ。 ・自尊心やプライド、羞恥心について学ぶ。 ・プライバシーの確保について学ぶ ・おむつに対する考え方を学ぶ。 ・排泄障害が生活に及ぼす影響を学ぶ。 ・排泄ケアを受けることでの心理的負担や尊厳について学ぶ。 ・便秘予防を学ぶ。 <p>上記をもとに、様々な条件設定にて、排泄に関する福祉用具の活用や、一部介助および全介助の方法、トイレ誘導やおむつ交換などの技術を学ぶ。</p> <p>実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。</p>
⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	4時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安眠のための介護の工夫について学ぶ。 ・安眠のための環境整備について学ぶ。 ・安楽な姿勢と睡眠時の褥瘡予防について学ぶ。 <p>実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。</p>
⑫死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	6時間	6時間	0	<p>以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期ケアの基本的考え方を学習する。 ・高齢者の死に至る過程を学習する。 ・臨終が近づいた時の兆候と介護や、介護従事者の基本的態度を学習する。

				<ul style="list-style-type: none"> ・多職種間の情報共有の必要性を学習する。 実技演習については、2人体制で指導し指導内容が全体に行き届くよう工夫をする。 通信学習課題の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識 ・生から死への過程 ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援
⑬介護過程の基礎的理解	6時間	6時間	0	以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的及び意義、展開を学習する。 →介護過程の段階やサイクルを理解する。 ・介護過程とチームアプローチの必要性と連携について学ぶ。
⑭総合生活支援技術演習	6時間	6時間	0	以下の内容を講義と演習を一体的に実施する。 高齢分野と障がい分野の事例を活用し、生活支援に関する支援技術や課題検討を行い、こころとからだのしくみを全体的にとらえ総合的支援ができる力の習得を目指す。 具体的には、エビデンスや自立支援などを前提にグループ討議等も活用しながら事例検討を進めていく。
(合計時間数)	75時間	63時間	12時間	

使用する機器・備品等	車椅子、介護用ベット、おむつ、杖、入浴機器など介護機器全般。 テキスト（中央法規出版発行）、配付資料等。 【添付のDVDについて】 ○第2巻の巻末に添付されているDVDは、第2巻の主要テーマである「介護職として身につけていなければならない生活支援技術」について、映像ともに詳説する視聴覚教材である。研修時に視聴することで、“尊厳の保持”“利用者主体”“自立支援”“安全”といった生活支援技術を駆使する際に前提となる基本理念を理解する。併せて、利用者個々の状況に合わせた技術の展開、自立支援と安全を両立させるための方法、そしてその技術を使う根拠を学ぶ。 ○具体的には、①感染の予防、②ボディメカニクスの応用、③体位と姿勢の変換の介助、④移動と移乗の介助、⑤食事の介助、⑥口腔ケアの介助、⑦排泄の介助、⑧衣服着脱の介助、⑨入浴と清潔保持の介助、⑩整容の介助、⑪ベッドメイキングの各場面を取り上げ、よい例と悪い例の比較もふまえながら、「なぜそのような方法で行うのか」という各技術の根拠とポイントを解説していく。
------------	---

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス (通信)

指定番号 207

商号又は名称：株式会社 シニアメディカルサービス (通信)

科目番号・科目名	(10)振り返り			
指導目標	① これまで学んできたことを通して在宅や施設を問わず、業務における基本態度を理解する。 ② 研修を通じて学んだことが整理でき、今後継続して学ぶ必要と目的を理解する。 ③ 終了後の自己研鑽の意義や今後継続的に学習する内容を理解する。 ④ 最新知識と次のステップへの課題を理解する。 ⑤ 介護職の仕事内容や従事する現場を理解し、事業所等の研修の実例を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	2時間	2時間	0	講義内容 ・研修を通して学んだことの整理 ・今後継続して学ぶことの整理 ・根拠に基づく介護についての視点
②就業への備えと研修終了後における実例	2時間	2時間	0	講義内容 ・継続的に学ぶことと自己研鑽の意義 ・研修終了後における継続的な研修について具体例を交えて紹介する。
(合計時間数)	4時間	4時間	0	

使用する機器・備品等	配付資料、DVD、配布教材等。
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。